



## 【特別支援学校のセンター的機能】

### ～しろがね特別支援学校による地域支援～

本校は、今年度より分校の単独校化に伴い、「渡良瀬養護学校しろがね分校」から「しろがね特別支援学校」に校名変更となりましたが、引き続き、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

### 昨年度の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	特別支援 学校	その他	計
件数	215 件	222 件	86 件	11 件	11 件	22 件	567 件

(その他は保護者や関係機関からの相談)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



中学生になると、小学校や幼稚園・保育園のお子さんと違って、授業中に自分の席から離れて友達のところに行くなどの明らかに目立つ行為はそれほど観察できません。

しかし、学習へのやる気が見られなかったり、周りの空気を読めない言動で友達に嫌な思いをさせてしまったりする生徒の相談が寄せられます。通常学級に在籍するA君もそのうちの一人でした。

そのような時、支援の方法としてはいろいろなことが考えられますが、昨年訪問した中学校の先生の素晴らしい実践例を紹介します。

担任の先生はクラスの生徒の人間関係を実によく観察し、環境を整えることでA君を支援しました。

具体的には、まず、先生が生徒達の実情を得てA君の座席を決めました。このクラスでは男女が隣同士で座るのですが、A君の心理状態に合わせて、異性とのペアの席と隣に誰もいない一人席を交互に経験させました。隣に

座ってもらう女子生徒は、A君自身も一目置いているBさんとCさんの2名で、A君に言いたいことをはっきり言えたり、A君を励ましたり、おだてたりできる生徒です。

英語の時間、プリントの問題をやっているときに、英語が得意なA君は、英語があまり得意でない後ろのD君に、プリントの答えを得意そうに教えていました。D君は自分で解きたかったため、答えを言うA君に「やめろ」と怒っていましたが、A君はお構いなく答えを言っていました。すると、隣にいたBさんが「これ以上言うと、Dが切れるぞ」と一喝すると、A君は何事もなかったように前を向いて自分のプリント課題を解き始めました。

「人は何を言われるかでなく、誰に言われるか」で、指摘を聞けたり、聞けなかったりするんだなと参観していた私も感動しました。

また、別の場面では、作文を書くときに苦勞していたA君に、Cさんが資料を渡して、書きやすいようにフォローしていました。

AさんとCさんの様子を見ていた他の生徒も、真似してA君を助けるような行動をするようになりました。合唱コンクールの練習に出たくないA君を迎えに行って参加せざるを得ない雰囲気を作り、練習に参加したA君を褒める生徒もいたため、A君も自然に参加していました。

これもすべて担任の先生が、子ども達の人間関係を良く把握し、BさんやCさんの言うことならA君が素直に聞くことを理解していて、A君のフォローを頼んだ結果です。また、クラス全員に、A君の良さを伝えたり、友達の良さを認め合える場を設定するという学級経営の良さが、A君の行動を変えたのだと思います。

中学生になると、大人より友達との関係が良くなる方がうまくいくケースが多いのです。

とても、感動したクラス経営だったので、紹介しました。

お子さんの指導で相談したいことがありましたら、障害の有無に関係なくお気軽にご連絡ください。



群馬県立しらがね特別支援学校  
(旧、群馬県立渡良瀬養護学校しらがね分校)  
専門アドバイザー

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113